

秀吉・家康二英雄の対南洋外交

国枝史郎

青空文庫

上

仏印問題、蘭印問題がわが国の関心事となり、近衛内閣はそれについて、満支、南洋をつつむ東亞新秩序を示唆する声明を發した。

これに関連して想起されることは、往昔に於ける日本の南洋政策のことである。

× × ×
 日本と南洋諸国、即ち呂宋、^{ルソン} 媽港、^{マカオ} 安南、東京、^{チャンパ} 占城、^{カンボ} 東
^{シア} 埔塞、^{シヤム} 暹羅、^{パタニ} 太泥等と貿易をしたのは相当旧くからであるが、

それらの国々へ渡航する船舶に対し、官許の免許状（朱印）を与えて、公に貿易を許可したのは豊臣秀吉で、それは我国の文禄元年、西暦の一五九二年のことであり、爾来御朱印船は、呂宋ルソンのマニラ市を中心として、南洋貿易を営み、平和の裡うちに巨利を博し、朱印を許した秀吉は、それらの船の持来たした珍奇の器物を購あがなつて心を喜ばせていた。

然るに、その秀吉が、南洋、主として呂宋ルソンに対し、経略の手を延ばしたのは、原田孫七郎の進言があつたからである。孫七郎は、その兄、喜右衛門と共にマニラに住み、貿易を業とし、盛大をきわめていたが、機智に富み、胆略あり、イスパニア語に通じ、呂宋ルソンのみならず比律賓フィリピン群島全体の事情に精通していたが、日本に

帰朝するや秀吉に謁し、比律賓フィリピンの現状を語った上「その本国イ
スパニアは、宗教政策を利用し、他国を侵略することを常套手段
といたしおりまして今にして比律賓フィリピンを、日本に於て攻略いたしま
せねば、イスパニアによつて、かえつて日本こそ侵略されるでござ
いましょう」と進言した。折柄おりにから秀吉は征韓の志を起し、武備
兵糧を充実させた時であつたから、天性の豪気いよいよ盛んに、
直ちに右筆をして、呂宋ルソン総督マリニヤス宛ての勸降の書を認したため
しめ、末段に「来春、九州肥前に営すべし、時日移さず、降幡
を偃ふせて来服すべし、もし匍匐膝行遅延するに於ては、速かに征
伐を加うべきや必せり」と記させた。何という恫喝的な、強硬な
外交文書であることか。

ところでその結果はどうかというに、マニラに戻った孫七郎の手によつて、この文書を渡された総督のマリニヤスは、憤慨したものの、折柄本国のイスパニアが、オランダ和蘭と事を構えていて国家存亡の際だったので、日本と抗争状態に入ることをおそ^{おそ}を懼れ、僧侶コボスと船長リヤノという者を使者とし、日本に遣わし、秀吉懐柔の策を講ぜしめた。一応秀吉の強硬外交は成功したのであつた。しかしマニラ総督が貢を入れるとも降服するとも申出たのでなかつたから、更に第二の文書を、孫七郎の兄喜右衛門の手からマニラ総督に致させた。「もし今後年毎ごとに貢進するに於ては、出征を見合わすも可なり」という意味の文書であつた。マニラ総督はこの文書を見ると又憤慨したものの、やは矢張り本国イスパニアの事情

が事情だったので、又も懐柔手段を執り、喜右衛門に、船長カルバリコ、及び宣教師三名を付け、返書と土産物とを添え、日本へ遣わした。その使者が日本へ渡り、秀吉に謁しての発言は、降伏のことではなくて、通商同盟の問題であつた。そこで秀吉は通詞をして云わしめた。

「予の母は日輪胎に入ると夢見て予を産んだ。占者は之を占つてこの児長じて世界を一統するであろうと。しかし我国には万世一系の天皇が在わす。よつて予は先に朝鮮を戡定し、支那また和を請い、王女をわが皇室に献せんと約した。しかも彼はこの盟約を実行せざるによる、ふたたび兵を出して是を征服しようとしてゐる。楼船海に浮んで路次呂宋に入るは容易のことである。呂宋の

大守はよろしく早く予に降服せよ。然らざれば遠からず討伐を受けるであろう」

しかしマニラ総督の使者は、

「私どもは国交を修めるために参りましたものでありますから殿下のご要求にお答えするには改めて総督からの訓令を待たなければなりません。使者を出し回答の参りますまで私どもを人質として日本におとどめおき下さいませよう」と云った。

もつとも

尤の言葉であつたので秀吉はその乞いを許したが、その後そのマニラの使者の中の三人の宣教師が、人質として日本にとどまつたのは、その実、キリシタン吉利支丹布教のためであり、布教の真の目的は、日本侵略のためであることを探知し、宣教師と、日本の信徒二十

六人とを刑戮し、その後、そのことに就いて、マニラ総督より抗議の使者が来るや「治外法権の設定なき以上、各国の在留人は、日本の法律に従うべきである」と突^つ刎^ばね、あくまで強硬外交の實を示した。

しかし秀吉は、その後間もなく慶長三年に薨^{こう}じたので、折角の対^{ルソン}呂宋強硬外交も、実利的の實は結ばなかつた。

しかし、その後^{ルソン}に天下を治めた徳川家康の南洋政策に対し、その秀吉の対^{ルソン}呂宋強硬外交は、日本の武威を示しておいてくれたという点で大變役に立つた。

下

徳川家康の南洋政策は、豊臣秀吉の強硬な、むしろ恫喝的、侵略的の夫れとは事変り、きわめて穩健で、親和的で、実利的であった。つまり、ひとえに貿易を興し、国益を図ろうとする経済的な画策だったのである。

秀吉が九通しか許さなかつた御朱印を、家康は、慶長九年に一挙二十九通許可し、盛んに貿易させたのであつた。しかし家康が南洋諸国に政策の手を延ばし、外交を開始したのは、それより少し早く、慶長六年のことであり、安南都統の阮敬という者が「日本人、当国海岸に漂流し来たり、当国人を妄りに殺戮す」と申し来たに對し「凶徒は貴国の法律に照して処罰されたし」と返書を

与えたことから始まり、翌七年、又安南の大都統、瑞国公より、通商に関する来書があつた時「風波は天なればご注意ありたく、凶賊は人にして、その凶賊は既に日本の近海より姿を消したれば、安んじて通商に従事ありたし」という意味の返書をした。そうして同年に東捕塞^{カンボジア}国王より同じく通商に関する文書来たるや「遠く信書を伝えられ、之を抜き、之を読むこと、蓮華床にして雹雪の語を聴くが如し」という、至極巧妙な外交辞令を用いて相手を喜ばせ、尚^{なお}、日本よりの貿易船は朱印を以て信牌^{もっ}とした故、これを所持している船は優遇信用してほしいと希望し、同じ年に、また同じ王から来書があるや、両国の交際のいよいよ厚くなることを喜ぶと云い、更に同国に内乱があつて干戈の常に動くことに同

情し「黎民の情に願うて能く慈愍を加えなば、国家は自然に安泰ならんも、已^やむを得ずんば即ち戦鬪に及ぶまた可なり」と大戦術家であると共に大政治家である家康らしい注意などを与え、更に兵器などは日本産のもの極めて鋭利なれば、所要に随^{したが}つて供給してもよいと、何時^{いつ}の時代にもある、戦鬪国に対して、第三国が行う武器売込みの手を早速用いたりした。

そうして秀吉時代に一時杜絶した呂宋^{ルソン}との通商も家康時代に入つて再び復活させた。

慶長六年のことであつたが、マニラの大守テイヨから久しぶりに来翰あり、日本人が支那人と共同して暴動^どをするが何うしたらよかろうかと処置を乞うて来た。これが秀吉であつたならわが神

州の男子は、異域に於て何んぞ暴動せんや、などと高飛車に出て嚇おどしつけたことであろうが、家康は然そうでなく至極しごく国際公法的に、凶徒は容赦なく貴国の法律に照らして処罰せられたしと返書し、更に、メキシコと交通したいが、貴下に於てその斡旋の労を執らるれば幸甚であると依頼したりした。

翌七年、またテイヨから文書が来ると、家康はいよいよ親和外交の奥の手を發揮し「容額を拜せず、辞語を聴かざるも、交情は四海一家の思いをなせり」などと、およそ秀吉が、わしは太陽の申し子じゃ、お前、まごまごして早く降参しないことには、征伐を受けること必せりじゃ、などという傍若無人の言辞とは似ても似つかない、嬉しがらせの辞令を与え、さて、その後から、再度

自分の希望のメキシコ通商の斡旋方を依頼し「日本がメキシコと交通しようとするのは、単に日本のためばかりでなく、貴国の為でもあるのです。というのは、今回そのため関東の浦賀を碇泊所としますがこれは貴国にとつても便利のことと思います。

尚、日本の現在は、国の内外静謐であつて寇賊の心配なければ安心して船舶を通ぜられよ」と云い送つた。そこで呂宋^{ルソン}は意を安んじて、同年船を浦賀に向け、書状及び贈物を献じ、爾来盛んに通商貿易をした。しかしメキシコと日本との通商交通の斡旋をしようとはしなかつたが、それは家康に悪意を以つて反抗したのではなく、それとは寧ろ^{むし}反対に日本とメキシコが交通貿易をするようになったなら、折角復活した日本と呂宋^{ルソン}との貿易が、メキシコ

のために妨害されるかもしれないことを懼れた結果なのであつた。つまり自分一人日本の寵児になろうとしたのであつて、秀吉のために横面を撲られて恐怖した彼が、家康によつて撫でられたので、そこまで懐いて来たのであり、秀吉、家康の硬軟二道の外交術が、南洋諸国を、よく日本に馴染ませた一例といふことが出来る。

兎まれ秀吉と家康との南洋政策は、その硬軟両様の外交によつて、その時代に於ては成功していたのである。

青空文庫情報

底本：「国枝史郎歴史小説傑作選」作品社

2006（平成18）年3月30日第1刷発行

底本の親本：「外交」

1940（昭和15）年8月19日、26日

初出：「外交」

1940（昭和15）年8月19日、26日

※「東埔寨」と「東捕塞」の混在は底本の通りです。

入力：門田裕志

校正：阿和泉拓

2010年11月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

秀吉・家康二英雄の対南洋外交

国枝史郎

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>